A 日程

二〇二四年度

尚絅学院高等学校

入学試験問題

国　語

試験時間（五〇分）

注　意　事　項

一．「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
二．解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
三．解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
四．印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
五．考査が終わったら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
六．その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号	

第一問　次の各問いに答えなさい。

問一　次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

(1) ホガらかな笑顔で話しかけられる。
(2) 叔父はジュンサ部長をしている。
(3) 敵に進路をボウガイされる。
(4) 式典で校旗を掲げる。
(5) 私の想像を超越していた。
(6) 免責事項を確認する。

問二　次の傍線部のカタカナを漢字に直したものとして正しいものを、後の選択肢から選び記号で答えなさい。

・自ガ自賛することがあってもよい。

ア 我　**イ** 賀　**ウ** 画　**エ** 雅

問三　次の□に共通して入る語を、後の選択肢から選び記号で答えなさい。

・□食　・一朝一□　・□間暮れ

ア 昼　**イ** 夕　**ウ** 夜　**エ** 晩

問四　Aさんの中学校では、校内体育大会で生徒たちの提案によって決められる競技が一種目あり、その種目について体育委員が候補を挙げることになりました。次は体育委員会での**【話し合いの一部】**と、話し合いで決めたことを知らせるために流した**【校内放送】**です。後の(1)〜(5)の問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

〈Aさん〉秋に行われる体育大会で、A生徒主体で競技種目を一つ決めることになっていますが、決め方について意見のある人はいますか。

〈Bさん〉はい、まず思いついた種目を挙げていくのではなく、体育委員会でどのような方向性の種目にするかを決めてから、意見を募ってはどうでしょうか。

〈Aさん〉方向性というのは、どういった内容になりますか。

〈Bさん〉全員参加の競技にするか、クラスの代表者が出場するかということや、得点の入る競技にするかどうかなどです。

〈Cさん〉なるほど、確かに体育委員会として候補をしぼってから投票してもらう方が、みんなも投票しやすいと思います。

〈Aさん〉話し合いとしては、参加者のことと得点のこと以外に何か意見はありますか。

〈Dさん〉質問ですが、プログラムの順や使える時間は決まっていますか。

〈Aさん〉時間は決まっていますが、Bそれ以外は自由に決めてよいことになっています。

〈Dさん〉それであれば、得点の入る競技をプログラムの最後にすれば、盛り上がるのではないかと思いました。

〈Bさん〉ダンスや組体操など得点に関わらないプログラムはすでにありますし、得点の入る競技にすることに賛成です。

〈Aさん〉では、得点が入る競技でよろしいでしょうか……良いようですので、次に参加者についてどうするか、意見のある人は挙手してください。

〈Cさん〉時間の制約を考えるとクラスの代表者が出場するのがよいと思います。普通のリレーなどはすでに競技種目にあるので、趣向の違うものがよいと思います。

〈Aさん〉全員参加の競技がよいという人はいますか……いないようであれば、各クラス代表者による競技ということで、案を考えましょう。

（以下話し合いが続く）

【校内放送】

体育委員会からのお知らせです。十月に行われる校内体育大会では、プログラムに加えられる競技を生徒主体で一種目決めることができます。その種目について体育委員会で話し合いをし、投票によって決めることにしました。

[X] を考慮して、各クラス代表者を選出し、プログラムの最後に行う予定です。大逆転の可能性もあります。

体育委員会で候補に選んだ競技種目は次の三つです。

① 玉入れ

② 騎馬戦

③ 大縄跳び

みなさんの希望の種目を一つだけ番号で紙に書いて、投票箱に入れてください。どうぞよろしくお願いします。

(1) A「生徒主体で競技種目を一つ決める」とあるが、体育委員会の話し合いで決められたこととして適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 時間を短縮するため、各クラスの代表者で競技を行うこと。

イ 盛り上がるようにするために、プログラムの最後に行うこと。

ウ 反対意見の人も考慮し、得点の入らない競技も候補にすること。

エ 体育委員の選んだ候補から、投票によって競技種目を決めること。

(2) B「それ以外」とはどういうことか。その内容として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア プログラムの順や使える時間に加えて、得点が入るかどうかということ。

イ 競技の決め方に加えて、プログラムの順や使える時間のこと。

ウ 競技の種目数に加えて、ダンスを入れるかどうかということ。

エ 競技の参加人数、プログラムの順や得点が入るかどうかということ。

(3) 空欄 [X] に入る言葉として最も適当なものを、**【話し合いの一部】【校内放送】**のいずれかの中から五字でそのまま抜き出しなさい。

(4) **【話し合いの一部】**での、それぞれの参加者についての説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 〈Aさん〉は司会進行役として他の参加者に発言を促している。

イ 〈Bさん〉は質問を積極的に投げかけて、意見を述べている。

ウ 〈Cさん〉は意見を述べた後、他の参加者に同意を求めている。

エ 〈Dさん〉は他の参加者の意見に対して問題点を指摘している。

(5) **【校内放送】**を読んで、追加したり修正したりしたほうがよいこととして最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 各クラスの代表者の投票によって競技が決まる予定であること。

イ 場合によっては得点が入らない競技に変更になる可能性があること。

ウ 投票で選ばれた競技についての審判や招集係などの当日の役割。

エ 候補として挙げた三種目の簡単なルールの説明や得点の仕組み。

第二問　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「どうやらイップスのようだね」

「イップス？」

わたしが聞き返すと、コーチはホワイトボードにその四文字を書いた。

「さっき、ダブルスの練習でもサーブが打てなくなっていただろう」

認めたくないけれど、うなずいた。

土曜日は、卓球場に来る練習生が増えるので、ダブルスの練習をやることが多い。先ほどわたしは紅里（あかり）先輩と組んで、高校生男子二人と練習試合をしていた。試合前の打ち合いのときはなんでもなかったのに、いざ、試合開始となったら、またあの症状が出たのだ。

それを見ていた田浦（たうら）コーチに呼ばれて、応接室に連れてこられた。紅里先輩たちは、1対2で練習試合を再開した。

「腕が思い通りに動かなくなる。ああいうのを、イップスって言うんだ。聞いたことないかい」

わたしは首を横に振った。知らなかったし、自分はそんな得体のしれないものとは縁がない、と言いたくもあった。

揚げ物を食べ過ぎたときのように胃のあたりが［　X　］してくる。最初は全日本選手権で打てなくなった。次は、県の大会で打てなくなった。そして今日は、ただの練習試合で打てなくなった。これが何かの「病状」だとするならば、確実に進行している。

「プロ野球選手でも、突然、ボールが投げられなくなることがあるんだ」

「なんでですか」

「理由が完全に解明されているわけじゃないんだが、プレッシャーやミスがきっかけなんだと。そのことを脳が思い出して、極度の緊張で、筋肉が動かなくなるらしい。野球選手だと、手が震えて送球できなくなったり、それでも無理して投げると、とんでもないところにボールを放ってしまってエラーになったり」

「卓球選手だと？」

「卓球では、私は今まで一度も聞いたことがなかった」

「ですよね。わたしも知らないもん」

「全国の知り合いに一斉にメールを送って聞いてみた。そうしたらな、大阪でクラブチームやってる友人が知らせてきた。自分の元教え子の選手が試合で腕が動かなくなって、スポーツ専門医に相談したら、イップスだったらしい」

「その人は、どうしたんですか」

病院に通えばいいのだろうか。何かトレーニングでも？　わたしの場合、鍼（はり）治療は苦手だ。そういうのが解決策だったら嫌だな、と思う。

「いや……その選手は……」

A 田浦コーチは、口元に手を当てて、しばらく黙ってから続けた。

「引退したそうだよ」

「え」

鍼治療でもなんでも、やれることがあるならありがたくやるべきなのだ。事の重大さを遅まきながら理解した。

「それは、あきらめたってこと？」

「あきらめるというか……。どういうふうに克服していくかは野球選手でも人それぞれで、克服できない例もある。そういうことを知って、彼は、卓球のない生活を選択したそうだ。ストレスのかかることさえしなければ、何も日常を侵すものはないんだからな」

「そんな簡単にやめられるなら……」

B わたしは、先を続けるのは思いとどまった。その人だって、きっと「簡単に」と決めつけられたら憤慨するだろうから。

「ただな、一つだけ明らかなのは、無理して体に負荷をかけたらいけないらしいんだ」

コーチは椅子に座り直し、こちらに目を向ける。敢（あ）えてわたしは、飾り棚のほうを見ながら聞いた。

「負荷っていうのは？」

「気合で治るとか、精神的に弱いからだって決めつけて、無理して練習するのは

よくない。体が反射的にこわばっているのに、無理やりプレーを続けたら、どこか別の個所に負担がかかって、故障につながりかねない」
「じゃあ、どうすれば」
足を組んで、髪を［Y］手でかき乱して、コーチは答えた。
「しばらく、休むか」
「え」
「どのくらい休むかは、君に任せるし、様子見で［Z］台についてもいいのかもしれない。サーブ以外のことが問題ないなら、ラリーをやって体を動かし続けるのは悪くない。ただ、C根本的なことを考えないとな」
「はい」
そうだ。どれだけ練習したって、サーブが打てなかったら、試合に出られない。
「じゃあ、とりあえず一週間くらい、休んでみます」
「それは短いだろう」
「じゃあ……一ヶ月？」
コーチは何度も何度もうなずいた。
「休んでる間に、病院に行ってみたいなら、スポーツドクターを紹介する」
「まあ、ちょっと様子を見てから」
自分でも、インターネットで調べてみようと思った。
「私は、君にプレッシャーをかけすぎたかな。期待を露わにしすぎたんだろうか」
「どっちかっていうと、コーチは、紅里先輩のほうをより推してるじゃん？」
Dわざとぞんざいに、言ってみた。
自分がこの卓球場の唯一のスター、なんてことはない。この卓球場出身で活躍している人は多い。プロになっている人もいるし、全日本選手権には、OBが何人も登場する。むしろ、わたし程度じゃまだまだ特別扱いもしてもらえない、と思っていたくらいだ。
「じゃあ、紅里先輩に挨拶して、今日は帰ります」
わたしが休むことで、最も直接的な影響を受けるのは紅里さんだ。ダブルスの練習が当面できなくなる。

「ああ」
土曜日の昼下がり、午後の日差しがまぶしい時間帯に、Tシャツ短パン姿から私服に着替えるなんて、記憶を辿ってみても思い出せなかった。いつもいつも、日が暮れるまでここにいた。
階下に行くと、紅里先輩が、
「あ、え？　どっか行くの？」
と近寄ってくる。
「すいません、イップスっていうのになっちゃったらしくて」
「あ……やっぱり」
紅里先輩はイップスを知っていたようだ。
「じゃあ、病院行くの？」
「はい」
行くかわからないが、それがわかりやすいだろうと思って話を合わせた。
「あの、それで、しばらく休みます。ダブルス、すみません」
「いいよいいよ、気にしないでゆっくり休養してよ」
Eなぜか涙が出てきそうになって、わたしはぺこっと頭を下げて、卓球場を飛び出した。
（吉野万理子「階段ランナー」による）

問一　空欄［X］、［Y］、［Z］に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

	X	Y	Z
ア	しくしく	ぎしぎしと	そろりそろり
イ	ちくちく	ぼりぼりと	ちょろちょろ
ウ	むかむか	くしゃっと	ちょこちょこ
エ	ぐるぐる	さらっと	ためしためし

問二 A「田浦コーチは、口元に手を当てて、しばらく黙ってから続けた」とあるが、このときの「田浦コーチ」の心情を四十五字以内で書きなさい。

問三 B「わたしは、先を続けるのは思いとどまった」とあるが、それはなぜか。その内容として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア イップスになった卓球選手が引退したという事実を知り、自分も引退することになれば卓球の他に何ができるのかを考えていたから。

イ イップスになって引退した選手は鍼治療でもなんでもやって克服すればよかったのに、あきらめてしまってもったいないと思ったから。

ウ イップスになった卓球選手が卓球をやめる決断をした背景には、他人には理解できない苦悩があったであろうと思ったから。

エ コーチの友人の元教え子がイップスになって簡単に卓球をやめられたことを知って、事態を重く受け止める必要がないと感じたから。

問四 C「根本的なこと」とはどのようなことか。その内容として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア ストレスを感じながらも紅里先輩とのダブルスを続けるのか、ということ。

イ ラリーの練習だけしてサーブの練習をせずに試合に出るのか、ということ。

ウ どれだけ休みをとったらイップスを克服できるのか、ということ。

エ どうしたらイップスを克服しサーブが打てるようになるか、ということ。

問五 D「わざとぞんざいに、言ってみた」とあるが、それはなぜか。その内容として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 他の選手を特別扱いしてきたコーチに対する怒りを露わにすることで、これからの指導方針を考え直させたかったから。

イ 家に帰って自分でもインターネットでイップスについて調べようと思い、コーチとの話を早く終わらせたかったから。

ウ 卓球場の唯一のスターになるためにはこの程度のことで悩んでいてはいけないと思い、自分を奮い立たせたかったから。

エ 自分からの過度の期待がイップスの原因ではないかと考えているコーチに、あまり自分自身を責めないでほしかったから。

問六 E「涙が出てきそうになって、わたしはぺこっと頭を下げて、卓球場を飛び出した」とあるが、このときの「わたし」の心情として適当でないものを、次の選択肢から一つ選び記号で答えなさい。

ア 自分がイップスになったことで、紅里先輩とダブルスを練習できなくなるため迷惑をかけることになると申し訳なく思っている。

イ コーチや先輩の手前気丈に振る舞いはしたが、これまで続けてきた卓球ができなくなるかも知れないという不安に襲われている。

ウ 自分がイップスになったことを紅里先輩が特に深刻に受け止めていないことに気づいて、悲しみを感じている。

エ コーチの話を聞いたことでこれからのことが不安になって動揺しているが、それを紅里先輩には見せたくないと思っている。

問七　この文章の表現上の特徴として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア　「わたし」の一人称の視点から描き、「わたし」が考えていることや心の言葉をわかりやすく直接表現している。

イ　イップスについて科学的事実に基づき客観的に記述することで、「わたし」に起こっていることの深刻さを強調している。

ウ　情景を要所要所で描くことにより、「わたし」の驚きや不安を読者にわかりやすく想像させる工夫をしている。

エ　コーチと「わたし」の会話から二人の信頼関係がわかり、深刻な話の中にも希望がほのめかされている。

第　三　問　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしたちは自分の視点からしか、ものを見、ものを考えることができません。そこから作りあげられる像――実体から離れているという意味で虚像と言ってよいと思います――に注目した人に、一七世紀はじめに活躍したイギリスの哲学者フランシス・ベーコン（Francis Bacon, 1561–1626）がいます。この虚像をベーコンは「イドラ」という言葉で呼びました。それがわたしたちを正しい認識から遠ざけていることを、『ノヴム・オルガヌム』（新しいオルガノン、つまり新しい道具・機関）と名付けた著作のなかで論じています。

いま言った虚像に基づいてわたしたちは先入見や偏見のようなものを作りあげているのですが、それをベーコンは四つに分類しました。

一つは「種族のイドラ」というものです。これは人間という種族、言いかえれば、人間の本性にその根源をもつイドラです。それが生じてくる理由をベーコンは「平らでない鏡」という比喩を用いて説明しています。［　X　］、人間の知性は、事物をそのまま受けとっているのではなく、最初からそれをこの「平らでない鏡」に映し、ゆがめて受けとっているというのです。

「平らでない鏡」というのは、いったい何のことでしょうか。わたしたちは通常、ものごとをゆがめることなくそのまま認識していると考えています。［　Y　］実際には、わたしたちは外から与えられる情報をそのまま受けとっているのではなく、目や耳などの感覚器官を通して、それに適合した形で受けとっています。またわたしたちが生きていく上で必要な情報だけを選びだし受けとっています。この感覚器官を通して与えられた情報をもとにわたしたちは世界のありようを把握しているのです。人間以外の動物や昆虫も、その感覚器官を通してそれぞれの仕方で外からの情報を受けとっています。彼らには世界は人間とはまったく違ったように映っているにちがいありません。人間が唯一、世界を正確に把握しているのではなく、それぞれの生物が、それぞれの感覚器官に応じて周りの世界を把握しているのです。人間がとらえている世界は、人間の感覚器官や知性という「平らでない鏡」に映った世界にすぎないのです。わたしたちは人間の世界のとらえ

方が唯一正しいものだと思ってしまいがちですが、それは一つの思い込みにすぎません。【ア】

この第一の人間の本性に基づくイドラを取り除くことは簡単ではありません。と言うより、それは不可能であると言った方が正確でしょう。ただ、わたしたちは人間の知覚や知識に限界があるということを自覚することができます。つまりイドラをイドラとして認識することができるわけですが、これは非常に重要な点です。先入見のなかにどっぷりと浸かってしまっていると、その限界に気づくことがありません。しかし人間はそこから一歩踏みだして、先入見を先入見として知ることができるのです。【イ】

ベーコンの言う第二のイドラは「洞窟のイドラ」です。このイドラは人間に共通のイドラではなく、それぞれの個人が作りだす虚像です。それぞれの人が、どういう気質をもった人であるか、［　Z　］どういう人に育てられ、どういう教育を受けたかによって、その人固有のものの見方が形成されます。その枠組みのなかで、つまりその狭い洞窟のなかで、人はものごとを見ているのですが、多くの場合、人は自分が洞窟のなかにいることにさえ気づきません。そうであるにもかかわらず、ものごとを青空の下であるがままに見ていると思い込んでいる人が多いのです。【ウ】

第三のイドラは「市場のイドラ」と呼ばれています。市場というのは言うまでもなく、人と人が出会い、言葉を交わし、物資を売ったり買ったりするところです。「市場のイドラ」というのはそこで生まれるイドラのことですが、ベーコンはとくに言葉との関わりでそれについて説明しています。たとえばわれわれは実在しないものにも名前を与えたりしますし、一つの言葉にいろいろな意味を込めたりします。そうした言葉のあいまいさとそれによるコミュニケーションのずれから生まれてくる混乱がここで問題にされています。【エ】

最後にベーコンが挙げたのは「劇場のイドラ」です。これは学問の、とくに哲学の学説に関わっています。ベーコンはこれまで主張されてきた、あるいはその当時主張されていた哲学の学説を、舞台で演じられる一つの芝居としてとらえ、そこで演じられる必ずしも事実に基づいていない演技、そしてそれが生みだす虚像をこのように呼んだのです。そういう観点からベーコンはこの『ノヴム・オルガヌム』のなかで、［　E　］。

（藤田正勝「はじめての哲学」による）

問一　空欄［　X　］、［　Y　］、［　Z　］に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。同じ記号は二度使えません。

ア　あるいは　**イ**　しかし　**ウ**　そこで　**エ**　たとえば　**オ**　つまり
カ　ところで　**キ**　なぜなら

問二　本文中に次の一文が入る。この一文の場所として最も適当なものを、本文中の【ア】～【エ】の中から選び記号で答えなさい。

・言葉もさまざまな幻影を生みだす一つの原因と考えられているのです。

問三　「『平らでない鏡』という比喩」とあるが、この比喩はどのようなことを説明したものか。最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア　鏡がゆがんでいると見る角度によって映るものが変わるので、人間同士であっても様々な角度からものを見る必要があるということ。

イ　人間の知性は高度に発達しているので、人間以外の動物や昆虫の立場でものを見たり考えたりすることは不可能であるということ。

ウ　人間が把握している世界は、情報が人間の感覚器官に適合する形で受けとられ、人間に必要な情報が選びとられたものだということ。

エ　人間以外の動物や昆虫には知性がないため、それぞれの生物がとらえている世界は人間のものと比べてゆがんでいるということ。

問四 B「人間はそこから一歩踏みだして、先入見を先入見として知ることができる」とあるが、これはどのようなことか。本文中の言葉を用いて、四十五字以内で説明しなさい。

問五 C「洞窟のイドラ」とあるが、これはどのようなことか。最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 狭いものの見方では、人の本性はなかなか見えにくいということ。
イ 狭い洞窟の中では、誰もが同じものの見方をしているということ。
ウ これまでの経験や教育によって、ものの見方がゆがむということ。
エ 自分の本性は人に見えないように、心の奥に隠しているということ。

問六 D「市場のイドラ」の例として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア エアコンの温度を上げるかを尋ねられて肯定の意味で「大丈夫です」と答えたら、否定の意味でとられてしまい温度はそのままになった。
イ 閉店セールだと聞いてお買い得な品がないかと買い物に出かけたが、安価なものは質も悪かったので、安易に買ってはいけないと納得した。
ウ 試験で難問が出て頭を悩ませていたが、急がば回れという教えを守り、諦めて他の問題に手を出したところどれも難問で全く解けなかった。
エ おいしいと評判のラーメン店に行き、自分で味を確かめようと思ったところ、自分の好みにもあう店で、それ以来常連となっている。

問七 E に入る表現として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア 過去の哲学学説から大きな影響を受けています
イ 過去の哲学学説を大胆に批判しています
ウ 当時の哲学学説を大いに賞賛しています
エ 当時の哲学学説に多大な期待を寄せています

〈問題は次ページへつづく〉

第四問 次の〈文章Ⅰ〉の漢文と、それに対する会話である〈文章Ⅱ〉を読んで、後の問いに答えなさい。

〈文章Ⅰ〉

宋人有下閔二其苗之不一レ長而揠レ之A者。上芒芒然帰、謂B其人曰、「今日病レタリ矣。予助レ苗ヲ長ゼシメタリト矣。」其ノ子趨リテ而往キテ視レバレ之、苗則チ槁レタリ矣。天下之ルヲ不二ル助レ苗ヲ長ゼシメハ一者ナシ寡矣。

〈書き下し文〉

宋人に其の苗の長ぜざるを閔へて之を揠く者有り。*1芒芒然として帰り、*2其の人に謂ひて曰はく、「今日病れたり。予苗を助けて長ぜしめたり。」と。其の子趨りて往きて之を視れば、苗則ち槁れたり。天下の苗を助けて長ぜしめざる者は寡なし。

（「孟子」による）

【注】

*1 芒芒然…すっかり疲れ果てて。

*2 其の人…家族。

〈文章Ⅱ〉

樹里　この話では、【　C　】が描かれていたね。

太一　結局その苗は枯れてしまったんだよね。

樹里　よかれと思ってしたことが裏目に出たということだね。

太一　「助けて長ぜしめざる者は寡なし」と結ばれていたけれど、【　D　】ということだね。

問一　A「之」が指すものを、〈文章Ⅰ〉から漢字のみで抜き出しなさい。

問二　B「謂其人曰」が「其の人に謂ひて曰はく」という読みになるように、返り点をつけなさい。（ただし、送り仮名はつけないこと。）

問三　空欄【　C　】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア　苗が長く伸びないようにするために引き抜いた人のこと

イ　苗が長く伸びないようにするために引き伸ばした人のこと

ウ　苗が伸びないことを心配して引き伸ばした人のこと

エ　苗が伸びないことに腹を立てて引き抜いた人のこと

問四　空欄【　D　】に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

ア　優れたやり方をする人はいない

イ　優れたやり方をする人が多い

ウ　馬鹿げたやり方をする人はいない

エ　馬鹿げたやり方をする人が多い

〈問題はここまで〉

二〇二四年度　尚絅学院高等学校　入学試験問題

解答用紙〔国語〕

A日程

＊の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

第一問

＊

※楷書（かいしょ）で大きく丁寧に書くこと。

問一

(1) ホガ〔　　〕らか

(2) ジュンサ〔　　〕

(3) ボウガイ〔　　〕

(4) 掲〔　　〕げる

(5) 超越〔　　〕

(6) 免責〔　　〕

問二 □

問三 □

問四

(1) □

(2) □

(3) □

(4) □

(5) □

第二問

＊

問一 □

問二

問三 □

問四 □

問五 □

問六 □

問七 □

第三問

＊

問一

X □

Y □

Z □

問二 【　　】

問三 □

問四

問五 □

問六 □

問七 □

第四問

＊

問一 □

問二 謂（ヒテ）其（ノ）人（ニ）曰（ハク）

問三 □

問四 □

受験番号
得点
＊

二〇二四年度　尚絅学院高等学校　入学試験問題

解答用紙〔国語〕

A日程

＊の欄には記入しないこと。
句読点、記号は全て一字に数えること。

第一問

＊

※楷書（かいしょ）で大きく丁寧に書くこと。

問一

(1) 朗（ホガ）らか

(2) 巡査（ジュンサ）

(3) 妨害（ボウガイ）

(4) 掲（かか）げる

(5) 超越（ちょうえつ）

(6) 免責（めんせき）

問二 ウ

問三 イ

問四

(1) ウ

(2) エ

(3) 時間の制約

(4) ア

(5) エ

第二問

＊

問一 ウ

問二

「わたし」にショックを与えない	ように言うのをためらったが、事	実を伝えようと決意する気持ち。

問三 ウ

問四 エ

問五 エ

問六 ウ

問七 ア

第三問

＊

問一

X オ

Y イ

Z ア

問二 【エ】

問三 ウ

問四

先入見に浸かった状態から脱し、	人間の知覚や知識に限界があるこ	とを自覚するということ。

問五 ウ

問六 ア

問七 イ

第四問

＊

問一 〔其〕苗

問二 謂二其人一曰（ヒテ　ノ　ニ　ハク）

問三 ウ

問四 エ

受験番号
得点
＊